



Hewlett Packard
Enterprise

AS A SERVICE により ITはどう変わるのか？

日本ヒューレット・パッカーード株式会社

Pointnext 事業統括

GreenLake ビジネス開発本部

本部長 酒井 睦

2020年1月20日

本日の内容

1

イントロダクション
ITによるビジネスの加速

2

As-a-Service と市場データ

3

実績が示すオンプレミス As-a-service の決定版！
HPE GreenLake

4

お客様事例

お客様のDX推進を支えるPOINTNEXT SERVICES

アドバイザー

アセスメント

ワークショップ

構想計画立案

PoV/PoC

プロフェッショナル

プロジェクト管理

要件定義

基本・詳細設計

構築テスト

オペレーショナル

移行

運用支援

利活用促進支援

インフラストラクチャー
サポート

As-a-Service モデルの推進

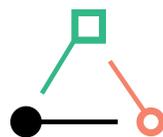
22,000

全世界のITエキスパート



11,000

一年間にプロジェクトを完遂



\$7.28B

2018のレベニュー



80

カントリー



30+

エコシステムパートナー



本日の内容

1

イントロダクション
ITによるビジネスの加速

2

As-a-Service と市場データ

3

実績が示すオンプレミス As-a-service の決定版！
HPE GreenLake

4

お客様事例

ITは、すべてのビジネスのコアに

Enabling people, technology, and economics



加速と革新のために
適切なテクノロジーを提供



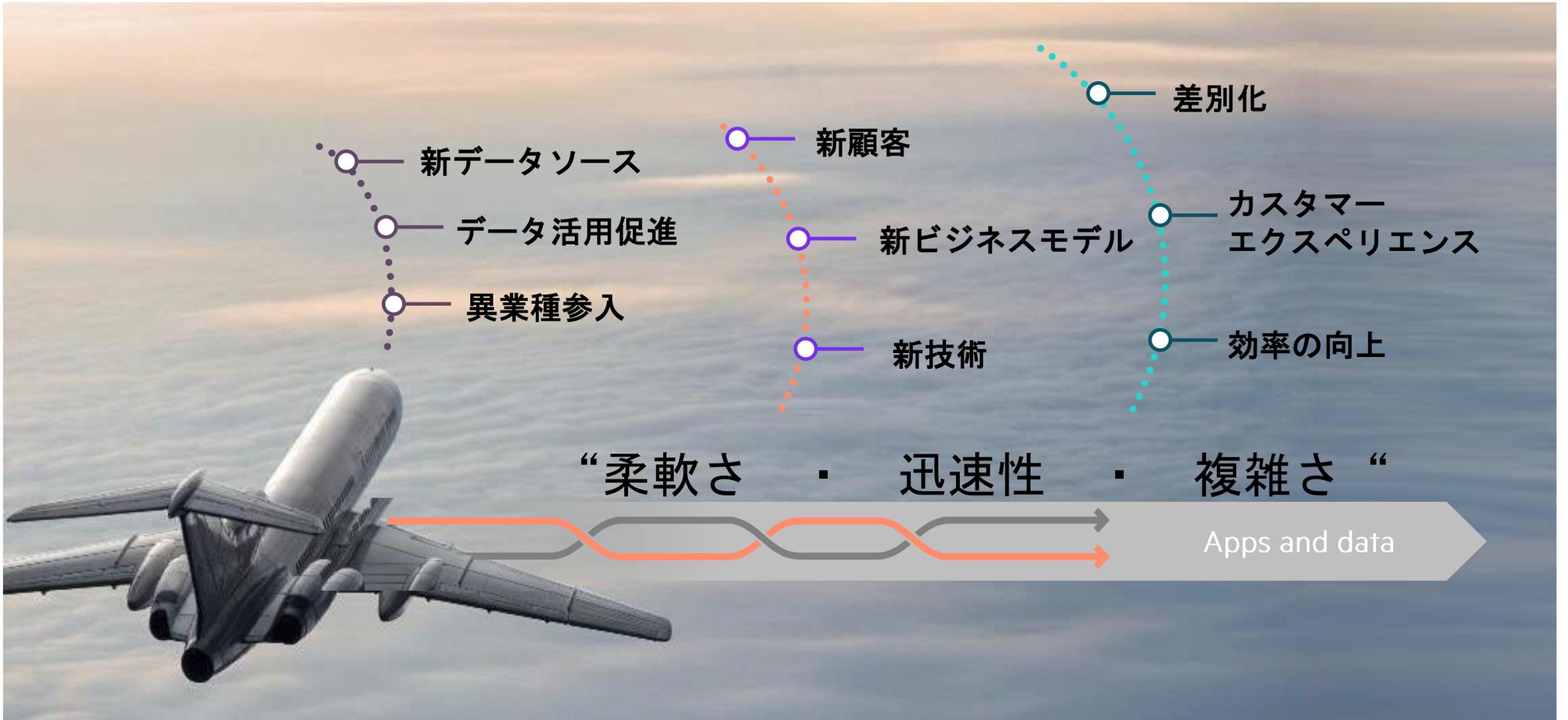
最も効率の高い働き方と
ビジネス価値向上を支援



競争優位性について
より良い経済性を提供



ビジネスにおけるITの役割は“新たなステージへ”



ビジネスにおけるITの役割は“新たなステージへ”



本日の内容

1

イントロダクション
ITによるビジネスの加速

2

As-a-Service と市場データ

3

実績が示すオンプレミス As-a-service の決定版！
HPE GreenLake

4

お客様事例

IT 実運用に関する市場調査

59% コンピュート

48% ストレージ

オーバープロビジョニング
企業平均¹



50%

リソース量変化の未対応
によるダウンタイムを経験¹



59%

追加リソース調達に
3か月以上かかる¹



57%

パフォーマンス遅延の
クレームを経験¹



¹ 451 Research November 2016

ビジネスが要求する **AS-A-SERVICE** の 3 つの要素とは？

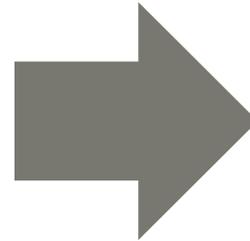
これまでの IT 調達との比較

IT リソース調達

何に対して
支払うか

オペレーション

これまで



As-a-
service

AS-A-SERVICE の 3 つの要素とは？

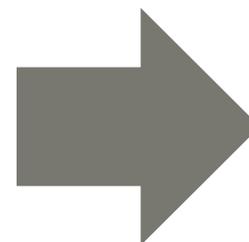
「ITリソース調達」を比較

これまで

マニュアルかつ潜在的な購買プロセス

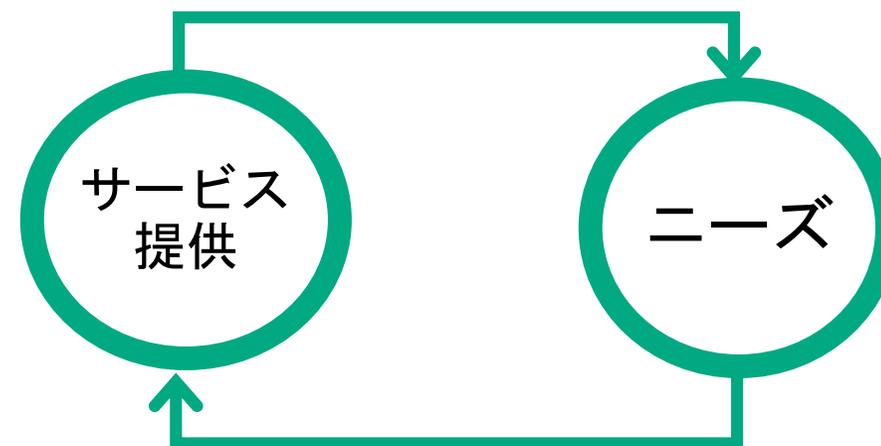


時間単位は数か月



As-a-Service

オートメーション
素早いプロビジョニング



時間単位は分・時間

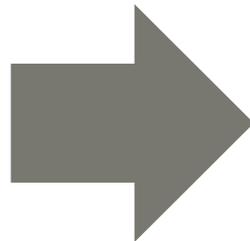
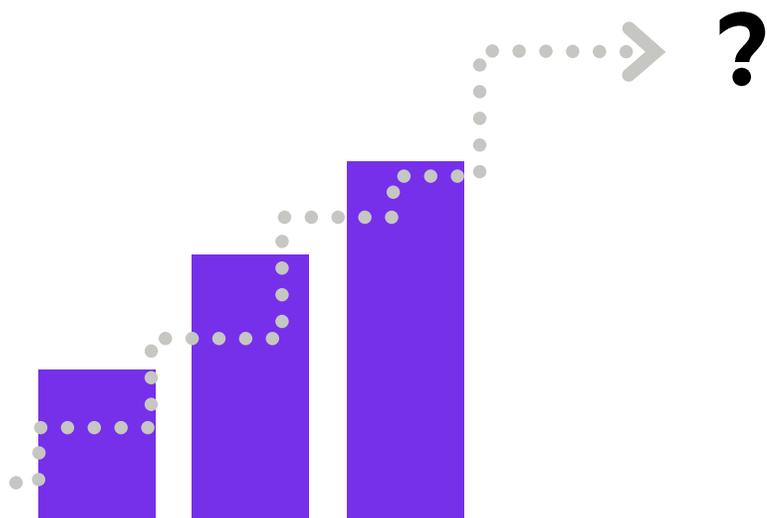


AS-A-SERVICE の 3 つの要素とは？

「支払い」の要素を比較

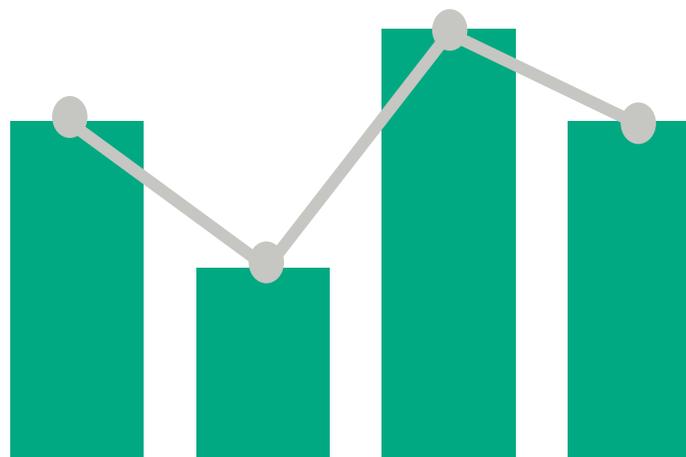
これまで

予測した必要量全体に対して



As-a-Service

使用量に対して

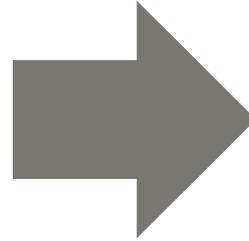
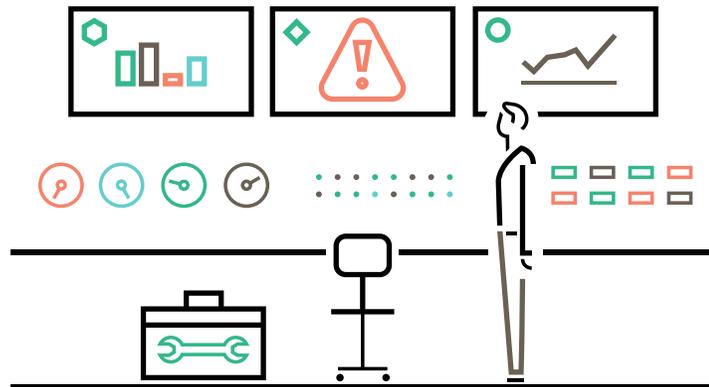


AS-A-SERVICE の 3 つの要素とは？

「オペレーション」の要素を比較

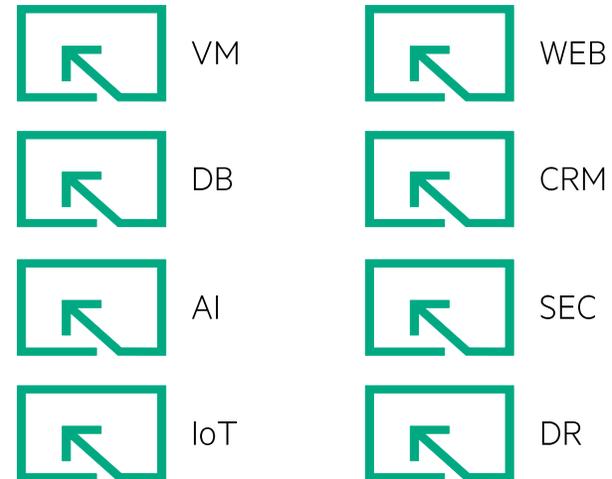
これまで

導入計画見直し
停止時間の確保



As-a-Service

維持運用にかかる
リソースの有効活用



AS A SERVICE により IT はどう変わるのか?

Recap As-a-Service

STOP 推量
START 消費

ビジネス成果に
アライン

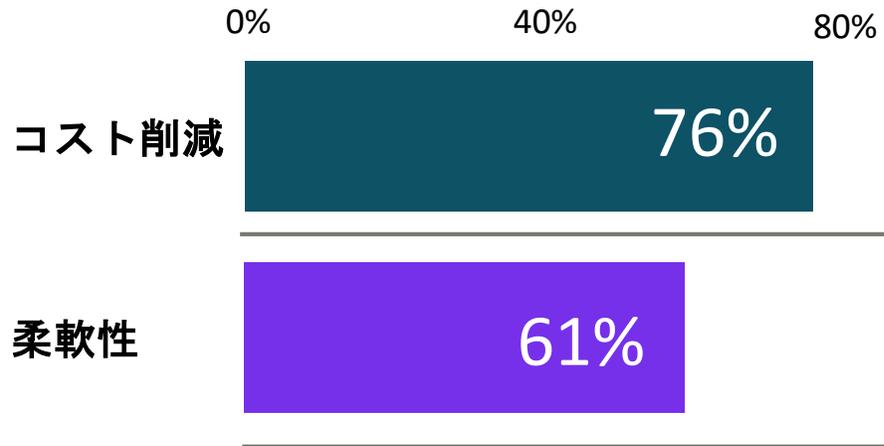
マーケットへの
素早い対応

クラウドとオンプレミス利用の主な理由

Business demands flexibility



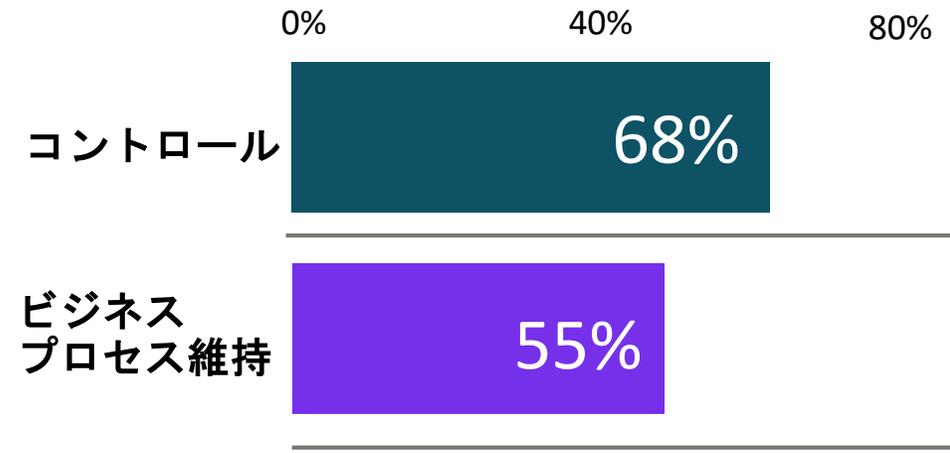
クラウドを利用する理由



IT needs control



オンプレミスを利用する理由

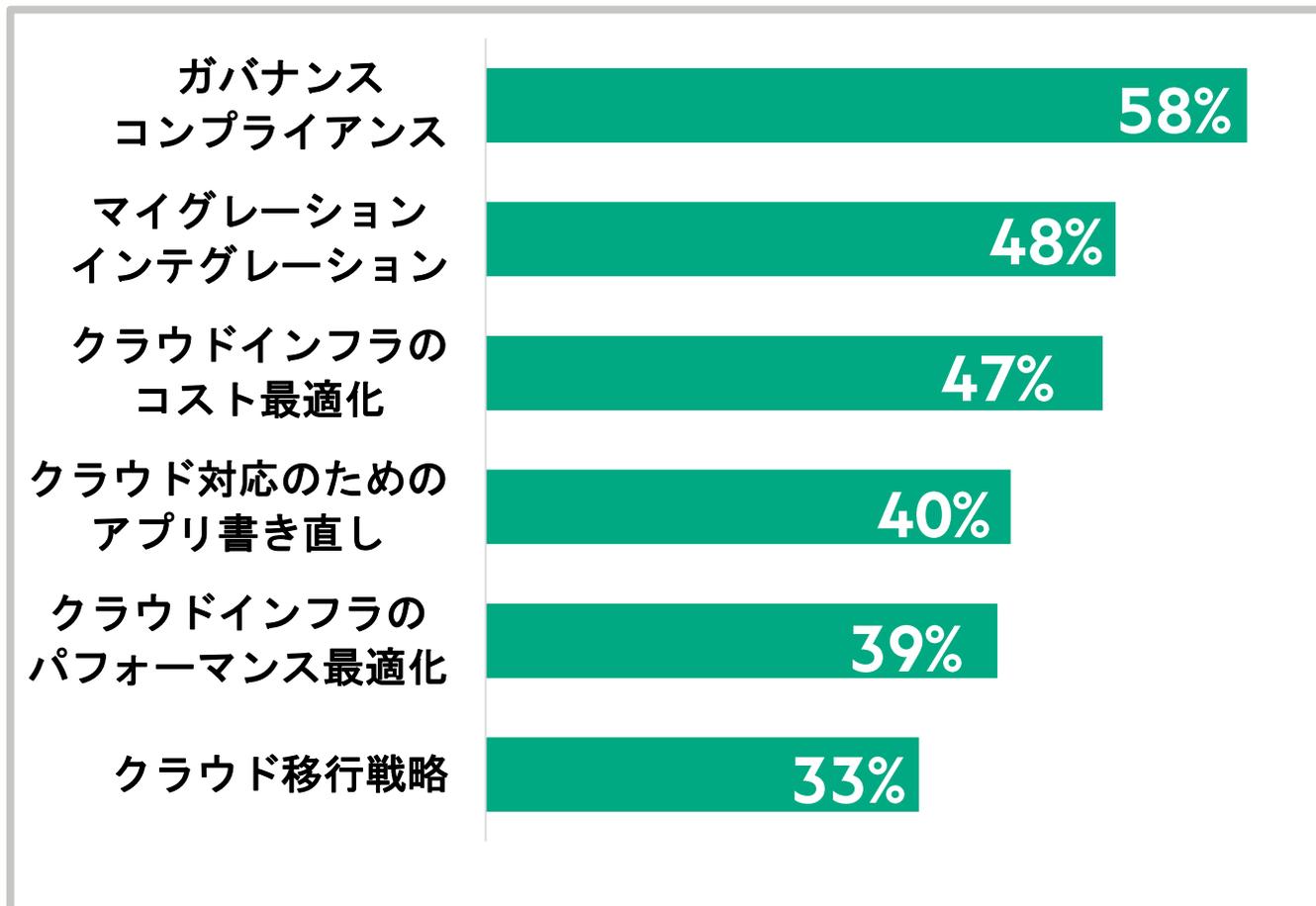


3. Frost & Sullivan 2017 Cloud User Survey

4. 451 Research, "Best of both worlds," November 2016

クラウド管理と移行へのチャレンジ

Q: クラウドのインプリに関して直面しているチャレンジは？



クラウド利点の一方で
現実のチャレンジとは？

1. コントロール
2. セキュリティー
3. コスト

Source: 451 Research's Voice of the Enterprise:
Cloud, Hosting and Managed Services, Budgets and Outlook N=436

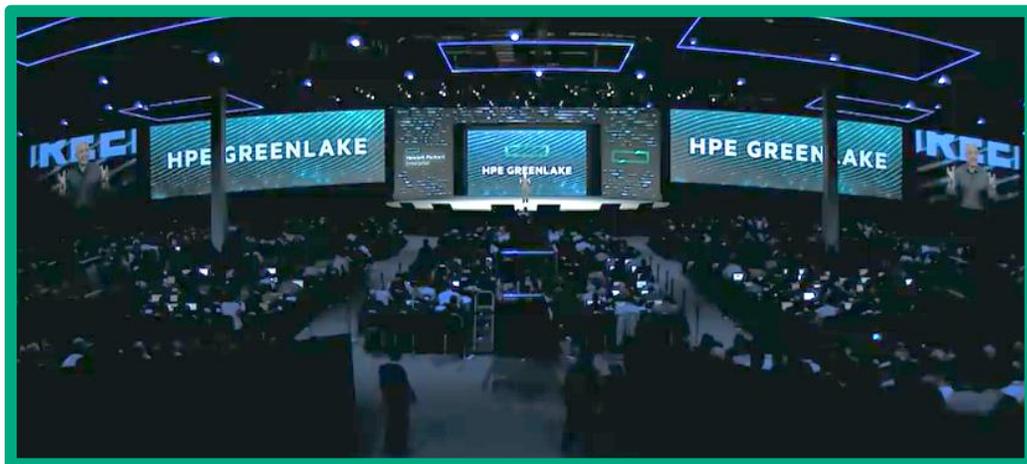
「AS A SERVICE COMPANY」への移行

HPE Discover 2019 @Las Vegas



Discover 2019 Las Vegas KEY NOTE 「As a Service Company」へ移行

2022年までにポートフォリオ全体を
サービスとして提供



クラウド技術を積極利用



As a Service ≠ パブリック

HPEは オンプレミスAs-a-Service のリーディングカンパニー



9年の実績

Global HPE

戦略的な投資

グローバルスケール

\$2.8B (28億) 以上の契約

本日の内容

1

イントロダクション
ITによるビジネスの加速

2

As-a-Service と市場データ

3

実績が示すオンプレミス As-a-service の決定版！
HPE GreenLake

4

お客様事例

オンプレミス従量課金モデル HPE GREENLAKE WORKLOADS DELIVERED AS A SERVICE

Storage

Compute

Virtualization

HPC

Private Cloud

Containers

VDI

Composable

Database

SAP HANA

Big Data

Backup

Metered by GB, core, compute used by software, memory,
TB backed up, container unit, network port, and more

HPE GREENLAKE

オンプレミスの月額従量課金サービス



お客様ご指定環境に設置



使用リソース量を測定
月額請求 (従量課金) ※1



すぐに利用可能な予備バッファ

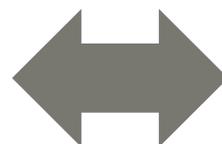


月次キャパシティ管理
予備バッファ補充



故障修理対応

24x7



お客様ニーズに合わせた
機器構成



導入構築作業



担当
エンジニア
チーム



カスタム
運用支援
(オプション)

(※1) 基本使用量 (最低料金) が設定されます。

ニーズにお応えする豊富な月額課金単位



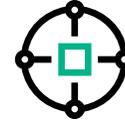
HPE Servers

- 物理マシン
- VMメモリ
- CPUコア



HPE Storage

- Write GB



HPE SAN

- Port



Azure Service¹

- 利用量単位



Backup環境

- 対象容量GB
- 対象 VM 数



SAP HANA環境

メモリ使用量GB



Big Data環境

- worker node数



ファシリティー

- データセンター容量

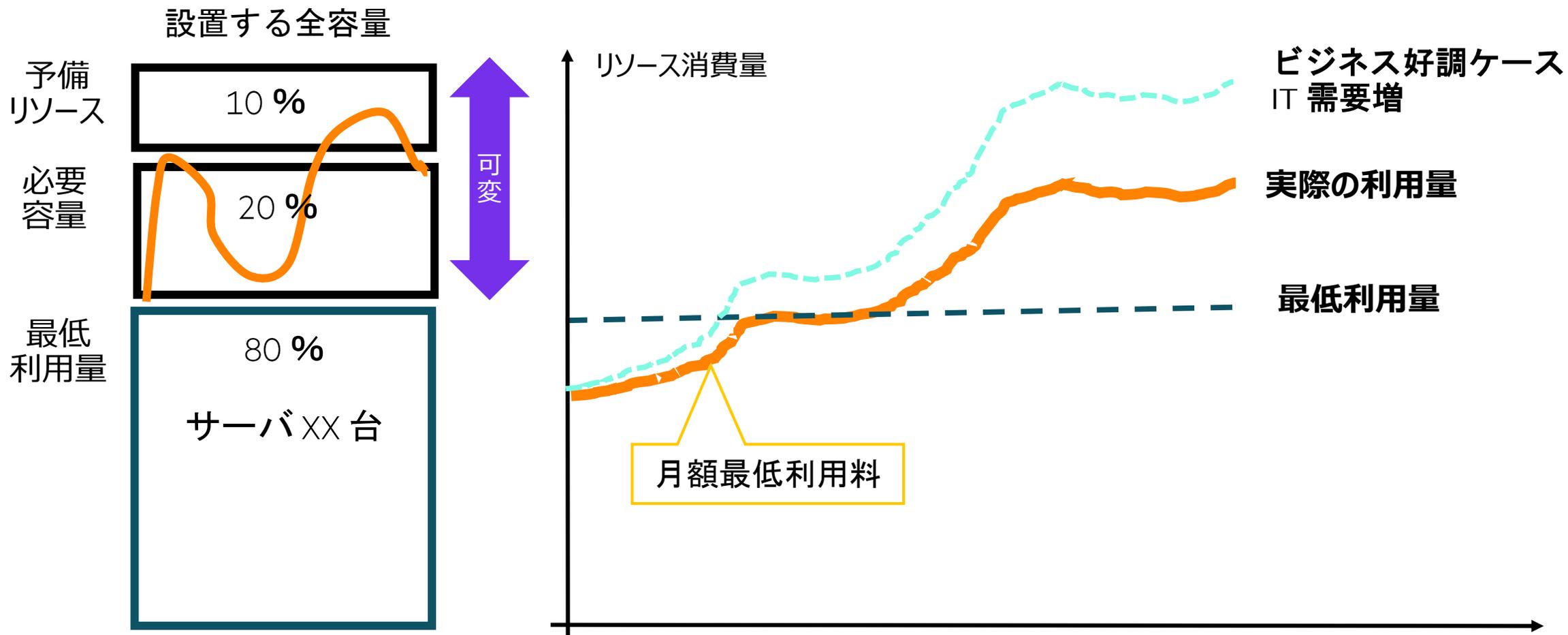
基本使用量（最低料金）が設定されています。

¹ サポート対象のAzureサービスがございます

* メータリング対応と非対応のものがあります

HPE GREENLAKE による AS-A-SERVICE メリット

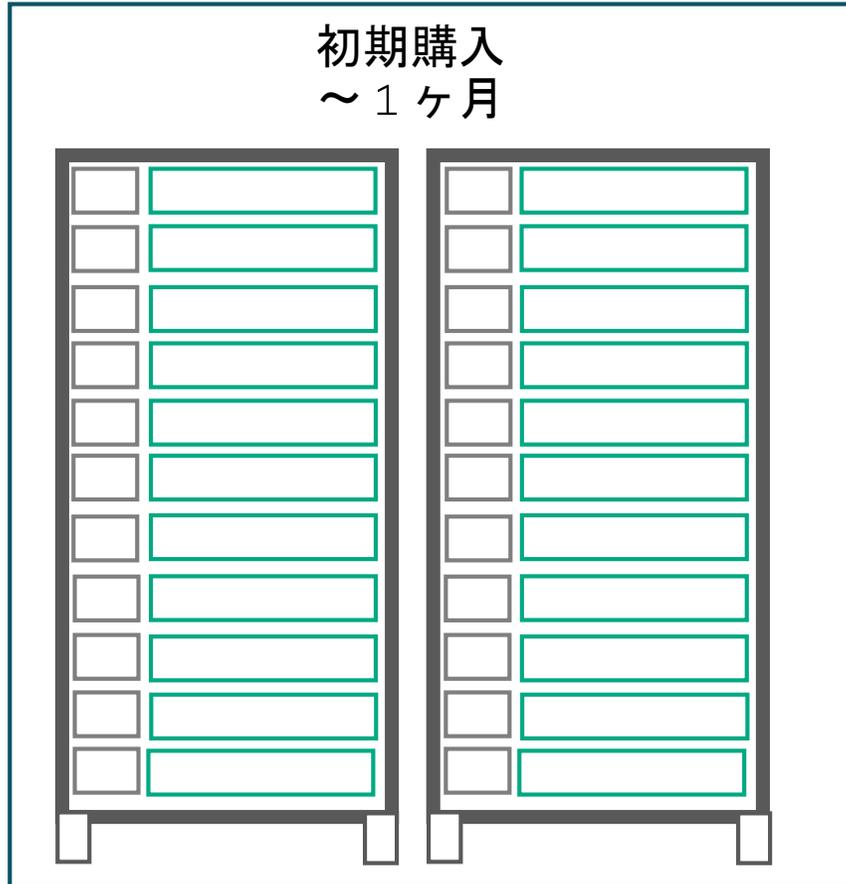
ビジネス状況に応じた柔軟なリソース消費



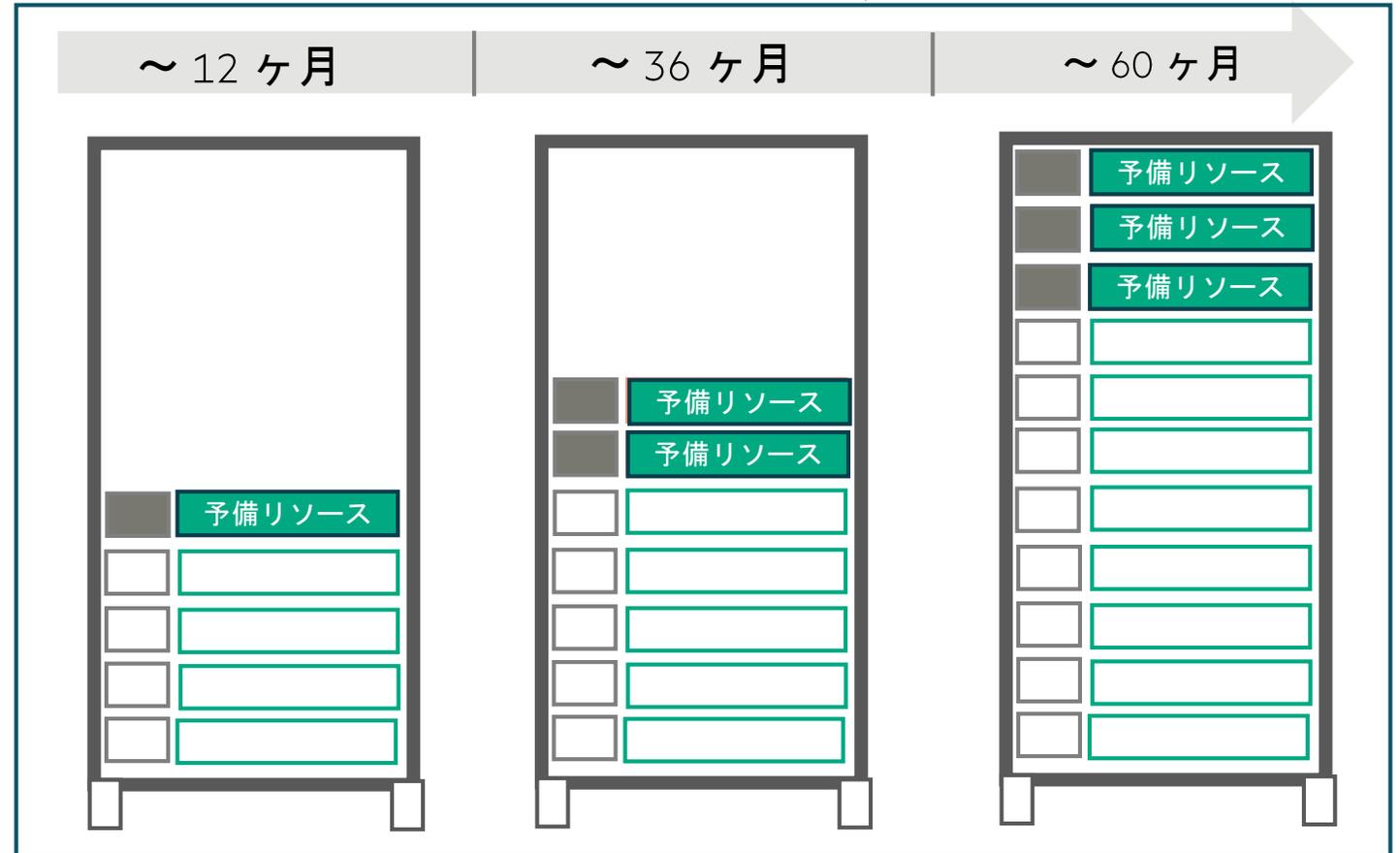
HPE GREENLAKE による AS-A-SERVICE メリット

必要容量が増加するビジネス成長モデルのイメージ

これまでのオンプレミス



HPE GreenLake As a Service モデル



メータリングツールとお客様用ポータルサイト

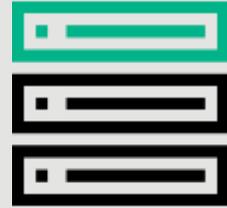
サーバ、ストレージ、SAN スイッチの使用リソース量を毎日測定

お客様マシン設置先



メータリングサーバ

お客様
メールサーバ



SSH
利用量を取得

SMTP

毎日の機器利用量
データ収集

E-メールで
データ転送
データは暗号化

HPE



HPE 社内
メールサーバ

HPE レポート
&
請求用DB

Consumption
Analytics Portal

<メータリングサーバの要件>

MS Windows システム（仮想マシンでも可）

.NET V4.0 and .NET 3.5 sp1

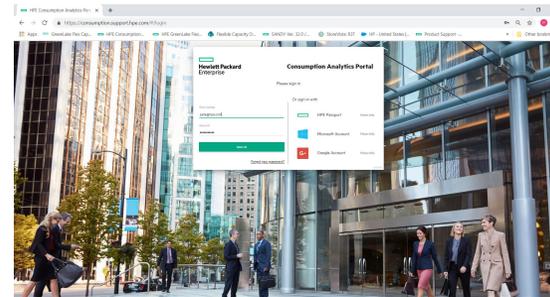
CPU 1.4GHz 64 bit processor 相当x2 以上

JAVA SE – latest version

RAM 4GB~8GB 以上

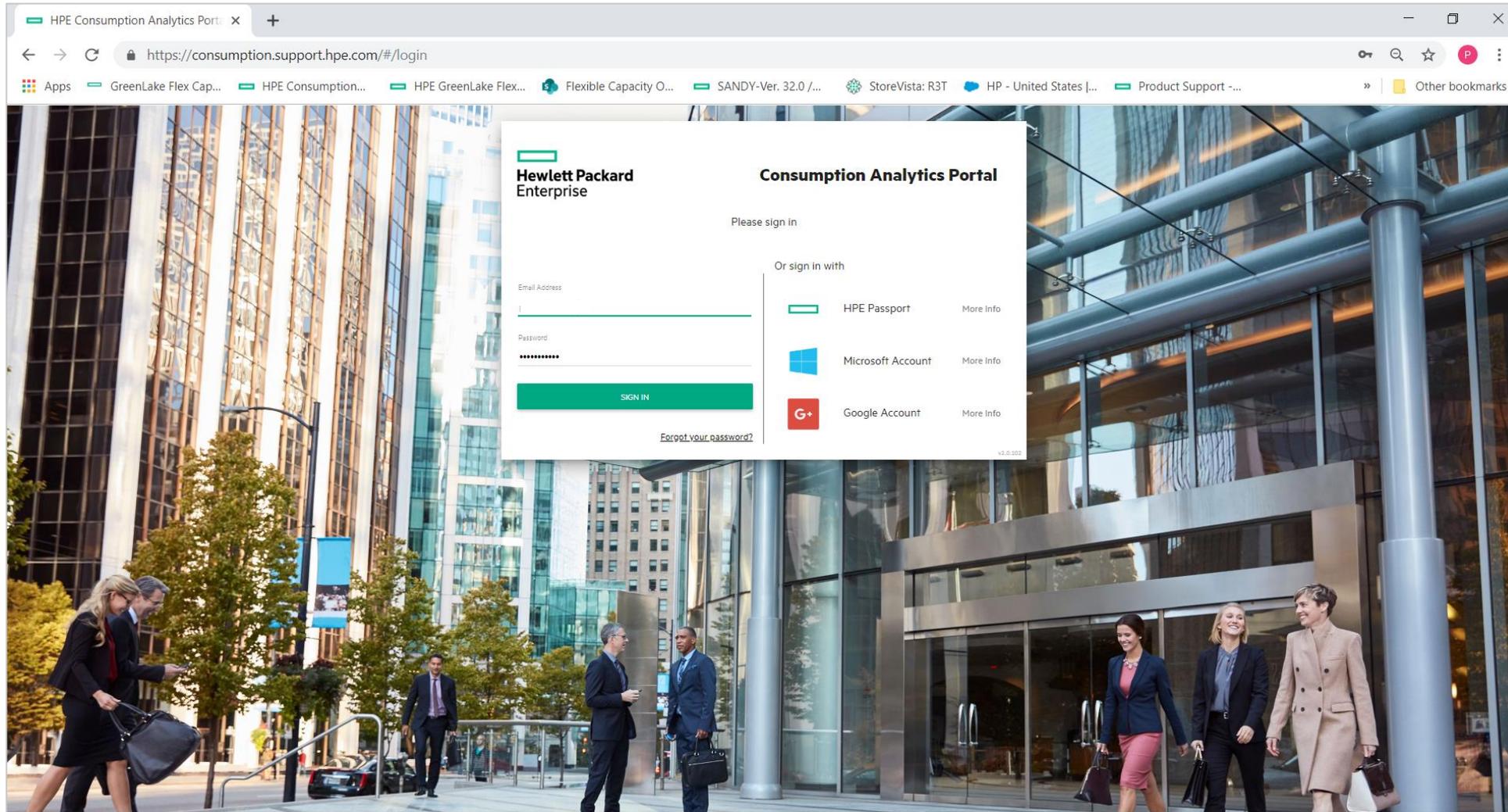
MS Powershell

DISK 128GB 以上

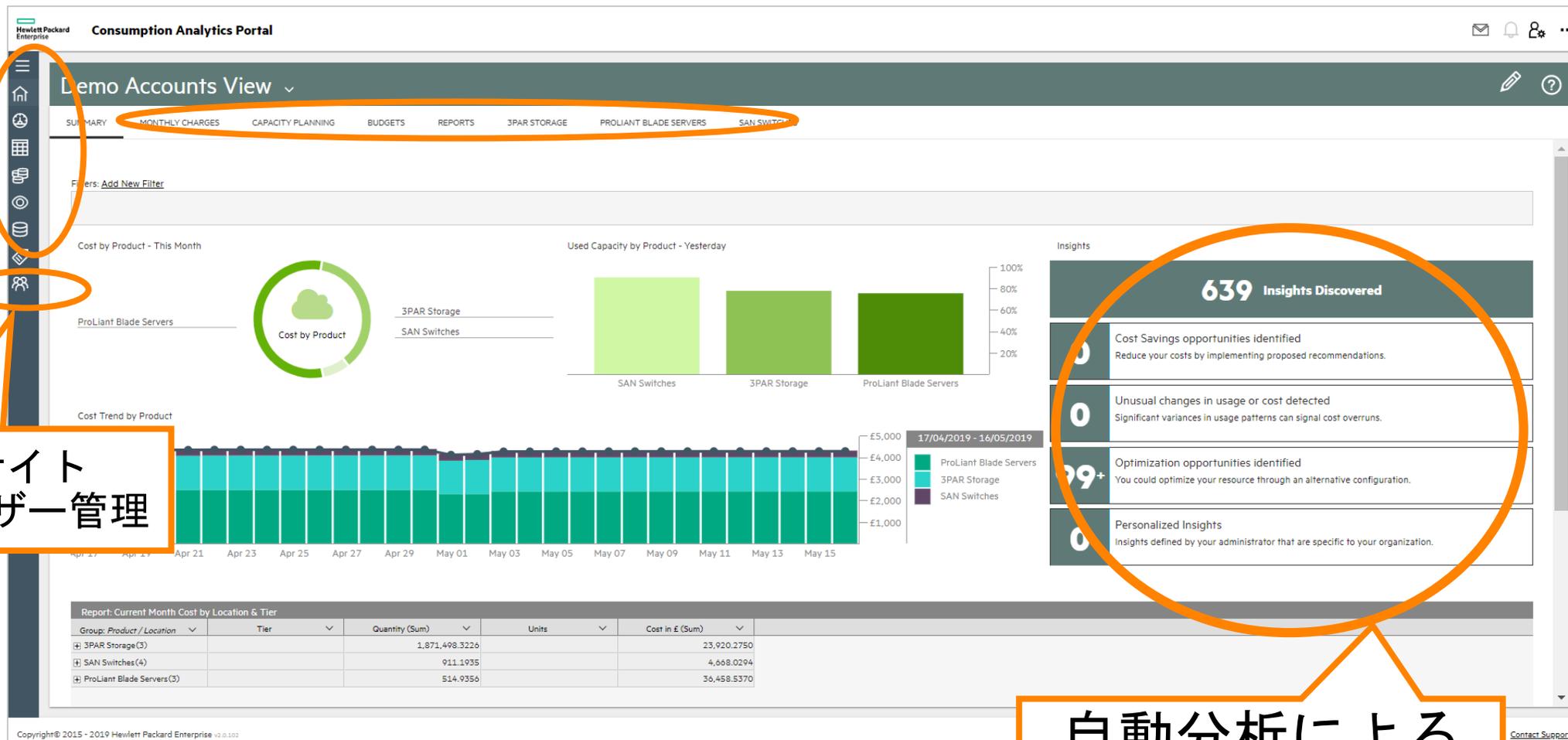


お客様ポータルサイト
利用量・月額請求額
各種分析レポートをご提供

CONSUMPTION ANALYTICS PORTAL



ユーザー初期画面

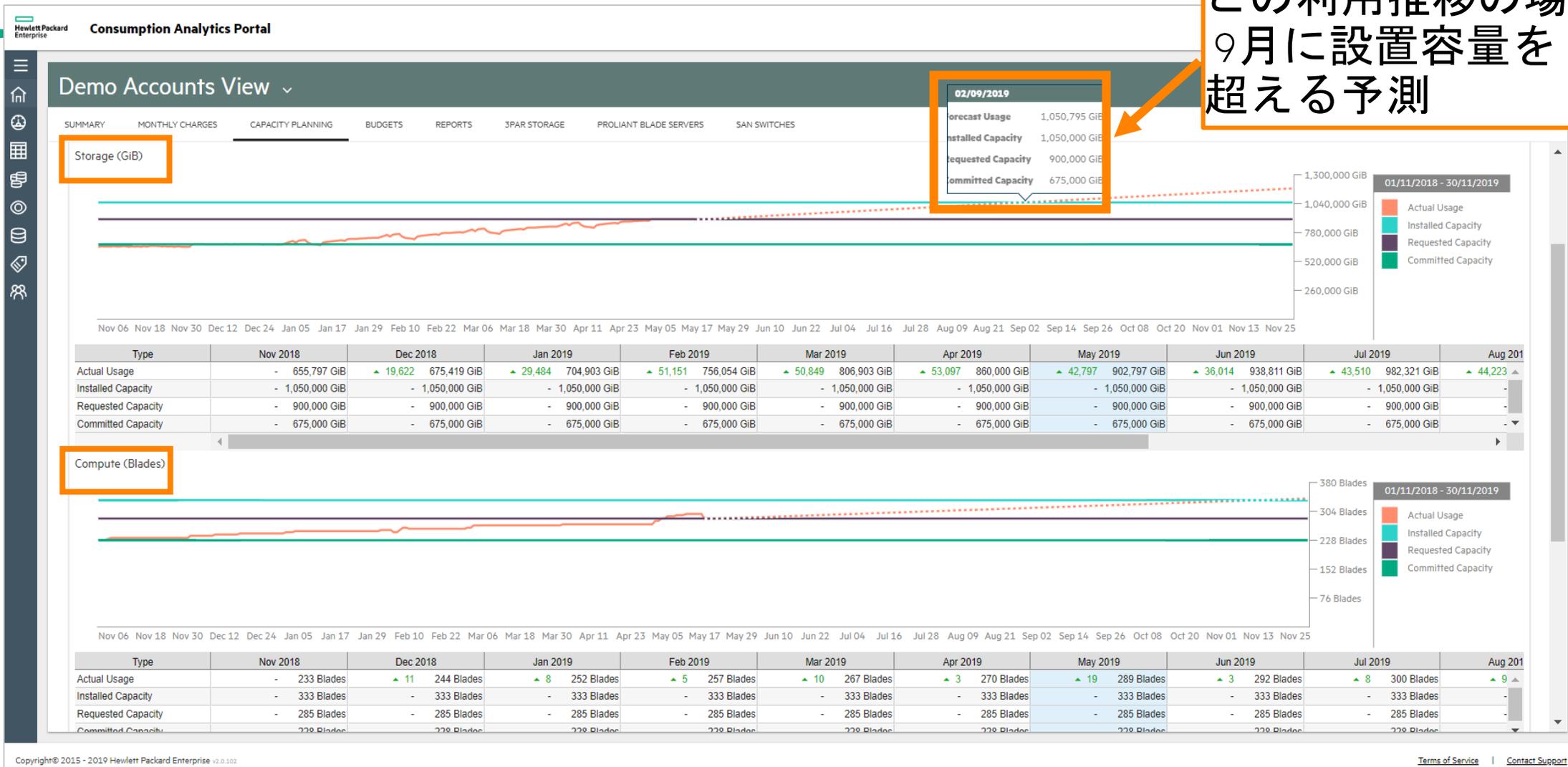


サイト
ユーザー管理

自動分析による
推奨事項

使用容量の傾向と分析

この利用推移の場合、
9月に設置容量を
超える予測



本日の内容

1

イントロダクション
ITによるビジネスの加速

2

As-a-Service と市場データ

3

実績が示すオンプレミス As-a-service の決定版！
HPE GreenLake

4

お客様事例

GREENLAKE をご採用のお客様

トヨタマップマスターが デジタル地図制作システムを統合し、 地図情報の高精度化・大容量化を加速

高性能HPE 3PAR StoreServオールフラッシュアレイを
「月額定額費用化」のHPE GreenLakeフレックスキャパシティで導入

“およそ5時間を要していた
バッチ処理が1時間で完了で
できるようになり、納品のため
の地図データ複製に要する
時間も1/3程度まで短縮さ
れました”

株式会社トヨタマップマスター
技術開発部 サービス開発室
グループ長
竹尾 浩志 氏



mapmaster

目的

デジタル地図制作の中核を担う「地図制作基幹システム」「差分地図制作システム」両システムのインフラ刷新。今後5年間で求められるシステム性能とストレージ容量を確保し投資対効果を最大化する。

ITの効果

- HPE 3PAR StoreServオールフラッシュアレイにより「差分地図制作基幹システム」「差分地図制作システム」を1システムに統合
- 5時間を要していた高負荷のバッチ処理を1時間に、3時間の日次データベース複製を1時間に短縮
- データセンターのラックススペースおよび電力コストを大幅に削減、同時に運用負荷も低減
- 年2回の「カーナビ用地図データ改定」における大規模な検査プロセス、納品データコピー等を高速化

アプローチ

高性能ストレージを中心に2システムを統合してインフラをシンプル化、機器の導入に際してコンプライアンスモデル（IT消費モデル）を利用し、ライフサイクル全体でのコスト平準化を図る。

ビジネスの効果

- CASE（コネクティッド、自動化、シェアリング、電動化）時代に求められる地図情報の高精度化・大容量化に対応する制作体制を強化
- HPE GreenLakeフレックスキャパシティにより、今後5年間で求められる性能と容量を確保しつつIT資産のオフバランス化を実現
- 高品質な保守サービスHPEデータセンターケアへの移行でシステムの不調がデジタル地図制作の生産性に与える影響を最小化
- HPE InfoSightによるAI予兆検知を導入し、ストレージから仮想マシンまで仮想化基盤全体の監視を強化する計画

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社が、 ハイパーコンバインドインフラと従量課金サービスを採用し、 全てにおいて柔軟なVDIサービス基盤を構築

HPE SimpliVity 380 Gen10によるインフラの柔軟性と
HPE GreenLake フレックスキャパシティによるコストの
柔軟性を実現

“プロジェクトの当初から、今回
構築するVDI基盤を弊社の
サービスに拡充することを考えて
いましたが、そのためにはより
速く運用ナレッジを蓄積し、同時
に高い品質とシンプルな運用
管理性を担保することが必要
でした。これら要件を満たす
HCL製品が、HPE SimpliVity
380 Gen10でした”

パナソニック インフォメーション
システムズ株式会社
エンタープライズソリューション
事業部
クラウド・運用サービス部
西日本インフラソリューション
チーム
千川 真征 氏



Panasonic

目的

サービスをご提供するお客様のネットワーク環境
分離が要件にあり、利用者の増減にも柔軟に対応
できるVDIサービス基盤を構築する。併せてこれまで
固定費化していたIT投資コストの平準化を図り、
さらなるサービス拡充に向けてHPE SimpliVity
380 Gen10の運用ノウハウを蓄積する。

ITの効果

- 高いパフォーマンスと耐障害性を兼ね備えたエンタープライズ向けHCL製品のHPE SimpliVity 380 Gen10を採用し、シンプルかつ柔軟なVDIサービス基盤を実現
- HPE SimpliVity 380 Gen10の採用で省スペースも実現し、お客様のデータセンターコストの低減にも貢献
- HPE GreenLake フレックスキャパシティの採用で、オンプレミス環境を「クラウドライク」に従量課金制で利用可能に
- HPE GreenLake フレックスキャパシティにアドインされたHPE データセンターケアの利用で、運用

アプローチ

省スペースでハイパフォーマンス、さらに柔軟な
拡張性と運用負荷の低減を可能にするHCL製品を
採用。また投資の平準化に向けて、オンプレミス環境
を月額従量課金制で利用できるサービスを選択。

ビジネスの効果

- HCL製品の採用により、利用者の急激な増減にも、迅速かつ柔軟に対応することが可能に
- 今回構築したVDIサービス基盤をベースモデルとして、柔軟な仮想デスクトップアプリケーションのサービスを拡充
- HPE GreenLake フレックスキャパシティの採用によりサービス基盤への投資コスト平準化に成功

GREENLAKE をご採用のお客様

大塚商会がクラウドサービス基盤を刷新 パフォーマンスの飛躍的向上と ビジネススピードへの即時対応を実現

HPE 3PAR StoreServ 8400オールフラッシュアレイと
HPE GreenLakeによる画期的なIT調達モデルを採用
「たよれーるクラウドaaS」の品質向上に貢献



「第1世代のストレージ比で8倍以上のIOPSを発揮します。特に、高負荷時でも高い性能を維持し続ける能力には目を見張るものがありました。」

一株式会社大塚商会
たよれーるクラウドaaSセンター
システム課 課長
シニアテクニカルスペシャリスト
豊前 一貴 氏



目的

中小企業向け「たよれーるクラウドaaS」のストレージ基盤刷新。パフォーマンスと信頼性、保守性を向上させ、より高品質なクラウドサービス提供を実現する。

ITの効果

- インテル® Xeon® プロセッサ搭載HPE 3PAR StoreServ 8400オールフラッシュアレイを採用し、高負荷時比8倍以上のIOPS性能を確保
- 管理・運用：冗冗・シンプルなビジネスを組み合わせることで管理効率を高めるとともに、ストレージが占有するスペースを25%以下に
- HPE GreenLakeフレックスキャパシティを採用し、ディスク容量に応じた従量課金制によりオーバープロビジョニングを解消
- 各社ビジネス要求に合わせた透明のリソース調達にも対応できる連携を構築
- 高品質のハードウェア保守により運用負荷の軽減とサービス品質向上を実現

アプローチ

ミドルレンジクラスのオールフラッシュアレイを軸に信頼性を確保、信頼性向上に貢献。また、購入・調達に関するプロセスも削減し、突発的な容量への要求があっても即座に対応できるようになりましたので、ビジネスチャンスを逃しません。

ビジネスの効果

- ストレージ基盤の高性能化が、クラウドサービス基盤全体の強化とサービス品質向上に貢献
- 新規にプライマリ領域で必要になった容量には追加コスト負担なしにSSDを提供可能に
- HPE GreenLakeフレックスキャパシティによりIT投資の最適化を実現し、収益期間の短縮化が可能
- HPE InfoSightによる高度な予測検知の利用に着手し、予防保守による重要なサービス品質向上に期待

「HPE GreenLakeの「オンサイトバッファ」を利用して、ストレージ容量の増設回数を大幅に削減することができました。また、購買・調達に関するプロセスも削減し、突発的な容量への要求があっても即座に対応できるようになりましたので、ビジネスチャンスを逃しません。」

—SCSK株式会社



SCSKがクラウドサービス「USiZE」の ストレージ統合を推進し、 信頼性、拡張性、パフォーマンスを大幅に向上

HPE 3PAR StoreServ 20000を採用しストレージ基盤を強化、
HPE GreenLakeによる従量制・月額料金へ移行、コスト削減と拡張性の確保を実現



目的

USiZEシェアードモデルのストレージ基盤強化。顧客の基幹業務システムを支えるパフォーマンスと信頼性を強化しながら、機器増設や障害対応などの運用管理負担を軽減する。

ITの効果

- HPE 3PAR StoreServ 20000(8コントローラ一機)を採用しストレージ基盤のパフォーマンスを強化
- HPE GreenLakeフレックスキャパシティを採用し本機を従量制・月額料金で導入
- オンサイトバッファを活用しディスク等の増設頻度を大幅に削減
- HPEデータセンターケアによるインフラ機器一括予兆検知を活用し、問題の把握・解決にかかる工数を大幅に削減

アプローチ

ミッドハイクラスの高性能ストレージに既存環境を統合するとともに、インフラ機器を「コンサンプションモデル」で導入することで運用管理負担とコストの軽減を図る。

ビジネスの効果

- ストレージ基盤の増強により、伸張するSCSKのクラウド事業を5年以上支え続ける体制を万全に強化
- 機器のメンテナンスや問題解決に要する時間と工数を削減することで、より一層顧客の事業へ貢献するための業務へシフトが可能に
- インフラ機器の月額費用化とともに、オンサイトバッファによりトータルコストを20%以上削減
- HPE InfoSightのVM環境を含む高度な障害予兆検知を活用し、サービス品質をさらに強化する計画へ

GREENLAKE をご採用のお客様

“新規ビジネスニーズやパブリッククラウドの進展等、様々な不確実性がある中で、HPE SynergyとHPE GreenLakeの組み合わせは、私たちが「予測できない変化」に適切に対応するための理想的なソリューションとなりました”

—みずほ銀行
ITシステム統括第一部
共通インフラ推進チーム
次長 田村 良太氏



みずほ銀行が「みずほクラウド (IA)」のサービス基盤最新化を推進し、予測できない変化への適応力を強化

HPE SynergyとHPE GreenLakeフレックスキャパシティを採用しあらゆる変化に適応可能なITインフラを月額・従量制で導入



目的

「みずほクラウド (IA)」の次世代インフラ構築、市場系・情報系を中心とした銀行業務を支える安定的なサービス提供と、予測できない変化に迅速に対応できるIaaS基盤を実現する。

ITの効果

- コンポーザブルインフラ製品HPE Synergyを採用し、Ansible Playbookによるハードウェア標準のセットアップ自動化を実現
- 最新のプラットフォームアーキテクチャによりハードウェア導入やネットワーク接続をシンプルかつ容易に
- HPE 3PAR StoreServオールフラッシュアレイにより優れたIOPSを1ミリ秒以下のレイテンシで実現
- HPE GreenLakeフレックスキャパシティを採用しインフラ機器/ソフトウェアの従量制・月額費用化を実現

アプローチ

IaaSを構成するハードウェアが公開するREST APIを活用し、セットアップの「自動化」を推進。さらに、インフラ機器やソフトウェア群を「従量制」で導入する。

ビジネスの効果

- 拡張や変更の容易なインフラ機器とコンテナシミュレーションを組み合わせた、プライベートクラウド基盤として現時点で考えうる最良水準の「変化への適応力」を獲得
- インフラ提供の迅速化や月額費用化など、ユーザー部門からの多様な要求に柔軟に対応する体制を強化
- 予測分析テクノロジー「HPE InfoSight」による障害予兆検知とプロアクティブ保守の実現を目指す

カブドットコム証券が、「MUFG×KDDIデジタル金融企業」への進化を支える次世代システム基盤の構築を推進

HPEサーバー/ストレージ製品群を全面的に採用
HPE Pointnextアドバイザリサービスが戦略の具現化に貢献



“HPE Superdome Flex上に、「発注基盤システムRAIDEN」と「勘定系システム」という、私たちにとって最重要のシステムを統合します”

—カブドットコム証券株式会社
システム統括部
基盤グループ
ジュニアスペシャリスト
竹内 眞祐氏



カブドットコム証券
むいしちゆう (MUFG) 株式会社

目的

データセンター移転と証券取引業務を支えるサーバー1,000台規模のシステム基盤の刷新。より高度な「安心・安全」「ローコスト」「柔軟・迅速」の要件をクリアし、デジタル金融企業への進化を支える次世代基盤を確立する。

ITの効果

- HPE Pointnextアドバイザリサービスがシステム要件のTier化と業務・アプリケーションごとのマッピングを支援
- HPEインフラ製品のフルポートフォリオがRight Mix (選材選所)でのサービス提供を実現
- HPE GreenLakeフレックスキャパシティによりインフラ機器を月額・従量制で利用可能に
- パブリッククラウド(AWS/Azure)とオンプレミスシステム基盤が連携するサービス提供を実現

アプローチ

システム基盤のアーキテクチャを全面的に再定義し、「障害検知」「災害対策」「性能保証」の観点からシステム要件を階層 (Tier) 化。業務ごとに最適なTierのテクノロジーを割り当て、コストパフォーマンスを最大化する。

ビジネスの効果

- デジタル金融企業としての多様なサービスを提供するための次世代インフラを実現
- 1,000台規模のサーバーを100数十台に削減し、インフラ関連の総コストを5年間で11%削減見通し
- ハードウェアのバックアップリソースを事前に確保し、必要になった時点で即時の利用を可能に
- APIを活用したシステム環境セットアップの自動化、AIを活用したインフラ運用の自動化に着手

お客様からのご評価まとめ

社内で何故パブリックを検討しないのか定期的にあげている。

“HPE GreenLakeはオンプレでも柔軟性があるところがよい”

都度稟議大変・時間がかかる。何故必要なのか説明が難しい。

“HPE GreenLakeは一度契約すると増設はHPEがやるので、社内稟議が不要で簡単”

社内のビジネス状況に変化があり、設備投資予算がおりにくい。

“HPE GreenLakeでキャッシュフロー改善を期待”

導入したが使用率が低い、ビジネスが想定通り伸びない場合の対策を考えたい

“HPE GreenLakeは4年、5年と先の読めない市況の中でITリソースをHPEがリスクヘッジしてくれる”

HPE GREENLAKE の効果

Time to Value向上

アプリとサービスの展開を加速

65% 向上

グローバルITプロジェクトに関する展開に係る時間を短縮¹

Cloud エコノミクス

初期費用不要、利用量課金
オーバープロビジョニング抑制

30% 削減

オーバープロビジョニングに起因する設備投資の削減¹

IT のシンプル化

工数削減によりベストな役割へ

44% 削減

運用維持のかかる時間を削減²

適切なコントロール

パフォーマンス、レイテンシー、
リスクとコスト、

40% 向上

ITチームの生産性向上
ITにかかるサポートを削減の結果¹

Recap

As-a-Service

by GreenLake

STOP 推量
START 消費

ビジネス成果に
アライン

マーケットへの
素早い対応

アンケートのご協力をお願い

アンケートと引き換えにノベルティをお渡しいたします。

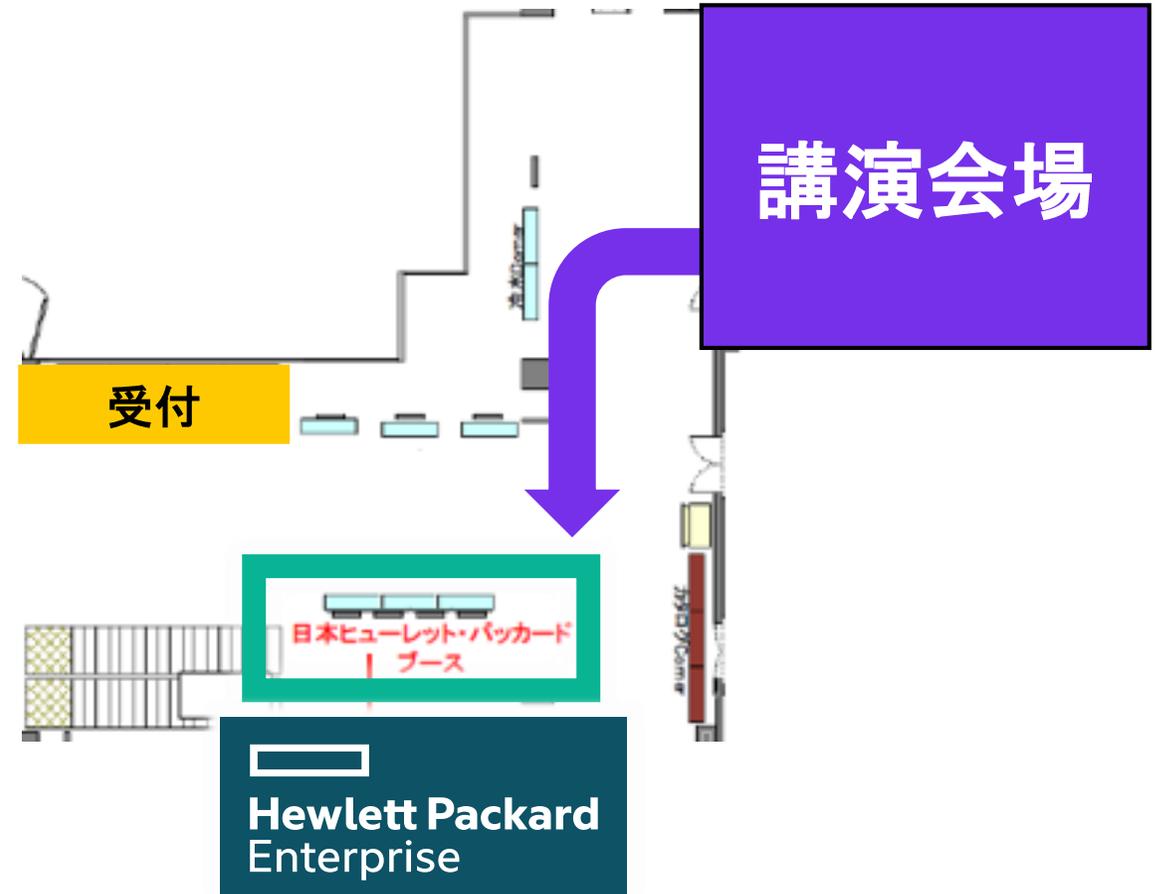
Hewlett Packard Enterprise
ITインフラSummit 2020 日本ヒューレット・パッカード アンケート【A-5】

01. 本日の講演資料をご希望の場合は、チェックを入れてください。
後日ダウンロードのURLをお知らせします。 希望する

← 本日の講演資料
をご希望の場合、
資料希望の欄に
チェックを入れて
ください。

HPE展示ブース案内

ぜひお立ち寄りお待ちしております。





HPE GreenLake

ありがとうございました